

9月20日

オーストラリア、オセアニアの殉教者

ピエール・マリー・シャネル
(1803.7.12~1841.4.28)
～オセアニア最初の殉教者～



聖公会ではこの日「オーストラリア・オセアニアの殉教者」を記念するが、ここではオセアニアで最初の殉教者となったフランスのマリスト会宣教師であるピエール・マリー・シャネルを紹介したい。

シャネルは1803年、フランスのリヨン近郊にあるキューエで、農家の息子として生まれる。早くから宣教師になることを考えていた彼は、ある司祭が経営する小さな学校で学び、1827年、司祭となる。その後、マリスト会に1831年入会し、1836年には宣教師として、ボンバリエなどの仲間と共にオセアニアへと派遣される。ボンバリエはニュージーランドへ、そしてシャネルらはフツナ島で宣教を開始する。

その頃のフツナ島はニウリキという首長が治めており、折しも島民の食人の慣行を禁じたばかりだった。ニウリキ首長はシャネルら宣教師たちを歓待し、最初は古い迷信の風習により難しかった宣教も徐々に実を結んでいくこととなった。

その背景には、シャネルの人となりが高く関係していたと言える。シャネルは熱心に地元の原語を学び、また病人を看護していくことで住民の信頼を得ることに成功していった。しかし、このことが逆に首長の反感を買うこととなる。

首長はシャネルに対し、妨害を行っていくが、五年間の宣教活動の結果、フツナ島には数人の洗礼志願者が現れるまでになった。ところがその中に自分の息子が含まれていることを知った首長の怒りは頂点に達し、数人に部下を遣わし、シャネルをこん棒で殴りつけ、さらに首を斧で切り落とさせた。シャネルは37歳の若さで、オセアニア最初の殉教者となった。

だが、シャネルの宣教はその後、大きく花開いていく。シャネルが死んでから三年の後には全島民が信仰を持つまでになったのである。現在もフツナ島の住民は全員がキリスト教信者である。

シャネルは1954年に列聖され、カトリック教会では4月28日を彼の祝日と定めている。

(Y)

<特祷>

全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにオーストラリア、オセアニアに遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン